自分もみんなも　明るく　うれしく　よかったね
１月号
新井中央小だより
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html　No.256
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　chuou@ac.city.myoko.niigata.jp　２０２１（令和３）年１月２９日

而今（にこん）

あのね、お母さん　　ぼくの心の中には、タンスがあるよ
覚えておく引き出し　忘れてしまう引き出し　もやもやを入れる引き出し
３つの引き出しがあるよ
お母さんもあるかな？

そうなの・・・　うん、お母さんもあるよ

あるお母さんとお話しした時、お子さんとの会話を教えていただきました。その会話にインスパイアーされて、私が、会話文に表現してみました。なんて素敵な子どもの内面世界、素敵な親子関係でしょう！令和３年の巻頭言初めに紹介させていただきました。

さて、表題の「而今」について、お話ししたいと思います。新潟日報の令和３年１月２６日版の「コトノハとの出会い」という紙面で私が初めて出会った言葉です。新聞には、「にこん」と読み仮名が振ってあったので、音声入力でググってみたら、カメラの項目がズラーっと出てきました。ちがう。今度は、漢字入力でググってみました。お酒の項目がズラーっと出てきました。お酒の銘柄として有名なようです。一般的には「じこん」と読むことは、分かりました。「而今　意味」と検索して、やっと出てきました。仏教の禅語で「にこん」と読み、「今、この瞬間を生き切る」という教えであることも分かりました。「新聞が読み仮名間違えてるんじゃないのー？」と疑って検索していた自分が恥ずかしい。

新聞紙面の話にもどります。毎月最終火曜掲載のシリーズで今回は、「夜回り先生」で有名な水谷修さんについての取材記事でした。水谷さんは、記事の中でこの言葉について「今を必死に生きる。僕が今、一番大切にしている言葉です。」と紹介しています。「夜回り」を始めて以降、受けた相談５０万件以上、メール１００万通以上、講演会は４４００回を超えるそうです。（加藤も講演をお聴きしたことがあります。著書も何冊か持ってます。）そして、〈出会った子どもたちに伝える言葉は「君の人生、君の救いは君の中にしかない。君自身が一歩踏み出すしかないんだよ。」その手伝いはできても、救うことはできない。過去をどう断ち切り、今にどう立ち返るか。〉とも話されています。最後は「今を大切に生きる。今の積み重ねが明日です。」という水谷さんの言葉で締めくくられていました。

私は、この記事に感銘を受け、知らずの内に自分の今と重ね合わせていました。コロナ感染拡大第３波の中で先の不安ばかりが、心の中で大きくなっていたように思います。今、自分にできることを、子どもたちと職員と保護者・地域のみなさんといっしょにやっていく、日々、積み重ねていくしかないんだなと心の整理ができました。もう一つは、今、職員と取り組んでいる次年度に向けての教育課程の編成、見直しの取組についてです。「何のために学ぶのか？」「何のために今、この学習をするのか」という子どもたちの素朴な問いに「将来、必要だから」「いつか、役に立つから」だけでない、「子どもたちの今」にしっかり答えられる教育課程を用意したいと思っています。必要だから学ぶ、楽しくてもっと学びたい、自分のため、みんなのために学ぶ、そんな「子どもの今」が充実する教育課程を目指して、日々、悩みながら、がんばっています。ご理解とご協力をお願いします。　校長　加藤　晃